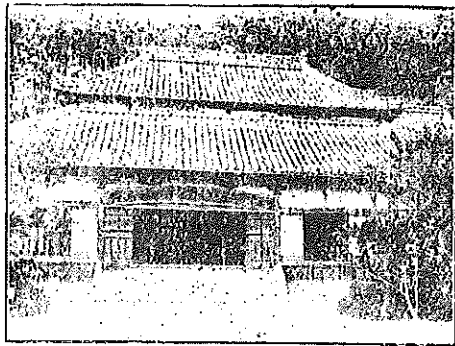


津の國の武庫郡猪名港川邊郡小阪田村に舟を泊して暫らく皇都の命を待ちしに、風烈しく浪惡しかりしかば意に舟を難波猪名港(唐船淵)に繋ぐ。偶々帝崩じ大鷦鷯尊(仁德天皇)位に即き給ひしを以て使主は難波の都に到りて二姫(弟媛のこと詳かならず)を獻す。朝廷より其の功を賞して猪名の港を賜ひ更に猪名港に機殿を建て、二姫を入らしめしに、二姫體より夜々光明を放ち油を費さずして機織を勤め(其の舊蹟今尙存せり)裁縫を專とし、天皇も天下の婦女をして其の術を學ばしめ給ひ、是れより男女貴賤の裝飾分れき。後、天皇の七十六年九月十七八日の兩日に二姫相亞いで長逝せしが、漢織姫は壽百三十六歳にして即ち(伊居太神社祭神)吳織姫(吳服神社祭神)は同百三十九歳なりき。越えて翌七十九年天皇靈異を感じて社殿を創建し、漢織姫の社を秦下社と稱せしめられき。これ實に本社の濫觴なり。降りて朝廷の縫殿寮を置き縫女部を定めらる、皆二神の遺風なり。故に代々の崇敬甚だ厚く、桓武天皇は延暦四年十一月勅して社殿を再營し應神、仁德の二帝を相殿に奉祀せしめられ、ついで醍醐天皇の延長年中兵亂に罹り神地を失ひ封纔に三戸となりしが、圓融天皇の天祿年中に至りて鎮守府將軍多田滿仲社殿を修葺し、爾來屢次武將之れを再興修造せり。且、後醍醐天皇は宸翰を兩社に賜ひ、以來穴織大明神、吳服大明神と稱するに至れり。現存の社殿は慶長九年の建設に成り、豊臣秀頼の命を受けて片桐且元の奉行して竣功せし所たりと。社域は町の北方(小阪前)池田山腹に靠り殆ど三千坪を相し、商賈櫛比の小阪前町を過ぎて石磴面を歴して起り、之れを上り盡して華表を入

れは坦路一走直ちに大門を見る。右傍一段の高所に兼好の松の跡(傳へ云ふ、地は吉田兼好の亂を避けて隠れし處と)、稻荷社、嚴嶋神社あり、左側は一帶築壁を以て圍み表門に近く伊那彦社ありて、阿知使主と都加使主とを祭れり。二神は縫工女を吳國に覚められたる功に依り采地として檜隈野を賜はり、履仲天皇の二年春二月また直の姓を賜はりて檜隈直と稱し、反正天皇の三年夏四月阿智使主の薨するや同四年十一月其の魂を祀り、爲那都比古大明神と諡し其の孫漢忘奴手直を祭主と爲せり。阪上及び秦氏皆その出なりと。大門は丹塗を塗り宏壯にして入れば拜殿あり、右に寶藏、神興庫、住吉社、松尾社、遙拜所あり、右に納札所、頼光社、社務所あり、拜殿の背後一段の高所に唐門あり、左右には透塀起りて社殿を圍み、社殿は白木造りにして清雅を極め、牆壁の外老樹蒼鬱として甚だ繁茂せり。例祭は毎年九月十七日にして翌十八日を以て吳服神社の祭禮を行ひ、儀式莊嚴にして市中の賑盛云はん方なし。氏子は十四町に亘りて一千七百餘戸あり。社實として穴織の木像一軀あり、丈九寸にして鑑査狀を有せり。

吳服神社 町の坤位に在りて吳織姫並に仁德天皇を祭れり。今は郷社なれども延喜式内の舊社にして、勸請及び由緒は共に伊居太神社の部に詳述せるが如し。社域は新市街室町の中央部に在位し、老杉古松の參天せる裡に宮殿粉壁の隱見せり。華表を過ぎ門を入れば磴道直ちに拜殿に至る、廊あり、本殿に至る。社殿は伊居太神社と同じく慶長九年豊臣秀頼の片桐且元を奉行として再建せしものにして甚だ素雅なり。境内に兩皇大神社、松尾神社、事代主神社、九頭

神社、大國主神社、伊奈都彥神社、天岩戸別神社、稻荷神社、稻倉魂神社等の末社あり。其の他呉織、漢織二姫の此の地に居住して機織裁縫に勉めたる當時の遺跡及び墳墓と稱するものあり。今の梅室、姫室は即ち其の墳墓なり。元此の奥津城は神社の丑寅の方四十間餘の處に在りしが、明治四十二年箕面有馬電氣會社の軌道敷設に際し神社境内に奉遷せり。又本社の方方に染殿井と云ふあり、二姫の汲みて糸を染めし井なりと傳ふれども今は水涸れて纔に其の形を存せるのみ。尙ほ池田川の二流に唐船淵と稱して二姫來朝のとき泊船の處と傳ふる淵あり。蓋し上古は此の邊海にして直ちに西海通航の水門たりしか。又東方の山頂に絹掛松あり、謂ふ、二姫の染糸を掛けて干し、樹なりと。例祭は毎年九月十八日にして氏子は七町に亘りて七百五十餘戸を有し、祭儀は伊居太神社の廣と共に莊嚴なり。所藏の寶物に筆者不詳の緣起書壹卷、花山院愛德卿筆卷物壹卷、後醍醐天皇宸筆「吳服大明神」の五字額片桐且元寄附の大笹葉鎗壹筋、作者不詳仁德天皇座像一軀、源滿仲寄附の劔一口、同觀角一本、光格天皇御即位草履等なり。



寺

大廣寺 五月山の半腹に靠り伽藍堂閣の參差として相併べるものはれを大廣寺とす。曹洞宗能登國總持寺の末寺にして塩増

山と號せり。昔此の山中に一池あり、其の水の時に隨ひて干満ある、恰も海潮の如くなりしが堂宇を創建するに當りて之れを埋めしかば其の舊蹟を傳へんが爲めこの山號を設けきといふ。本尊は釋迦佛にして脇壇に文殊、普賢を安じ、應永二年池田筑後守充正の創建にして天嚴禪師を請じて開基と爲せり。降りて元祿七年第十六世雪峰檀徒と協力して堂宇を再建増築し更に一層の莊嚴を極め隸寺四十餘院の多きに達し、塔中には陽春寺、泉福院、明悟院の三坊舎ありしが、明治の初め二院既に退轉して（泉福院は大阪に、明悟院は豊能郡豊中村大字新免に何れも移轉）今は陽春寺を剩せるのみ。寺域二千五百三十一坪を有し、市街の北方より果樹園間の斜路を辿りて繁紆幾回、緩く上れば須臾にして山門に達す。山門を過ぎて境内に入れば清淨潔麗の處、本堂、庫裡、方丈、知客寮、經藏、鐘樓等軒楹相接し、池田の市街は脚下に横はりて豊能の沃野遠く相連なり、途路糸の如く其の間に通じて寸人尺馬指呼の裡に入り、仰げば五月山の蒼翠堂尖を壓して寺は殆ど中空に懸れるが如し。此の蒼翠の裡望海亭址あり。亭は文明年中僧山祥の創營に係り、幾多の詩人墨客をして風月の娛を擅にし詩腸を惱ましめし處なれども、今は廢絶に歸して其の年月の如きも詳かならず、殘礎尙ほ存し其の故趾に就いて天保年中一碑を立てたり。寺寶に運慶作の釋迦、文殊、普賢の三像、傳牧溪筆龍見觀音の墨畫一幅、横川景三書望海亭記一幅、大明進士梅屋の書一幅、宸翰和歌、其の他少なからず。

陽春寺 大廣寺塔中の一院にして、元龜三年五月僧一麟創立して自づから開基と爲り初め陽

サクラ正宗愛用料理亭及販賣店

本町	本町	本町	建石町	米屋町	米屋町	米屋町	仲之町	仲之町	仲之町	仲之町	新町
めん茂樓	富士市樓	久代屋	角糸樓	勝兵衛	山形家	春の家	魚治樓	ライオン	二葉亭	久之家	猪名川
新町	新町	新町	西之口	西之口	西之口	西之口	田中町	田中町	田中町	田中町	田中町
戎樓	都樓	豊島屋	武田商店	ざこ留	あづまや	八百督	魚治樓	すし留	井筒	柴田酒店	入船
林口町	林口町	林口町	林口町	室町	槻木町	北之口	能勢口	能勢口	能勢口	橋西詰	奈野村
栗の家	峰村家	福田酒店	井澤酒店	岸本酒店	澤酒店	多田屋	お多福	富の家	廣末商店	人槻酒店	くづ家



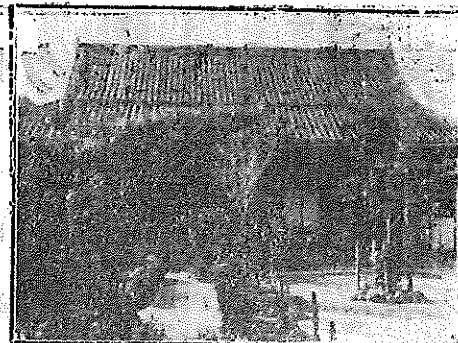
御旅館
御料理
すし仕出し
都樓

電話池田三十番
振替大阪四二五〇三番

ミヤコ商店

營業品目
銘酒都踊
櫻サヒ正宗
アサヒビール
三ツ矢サイダー
食料品
池田南新町
粧醬
茶油糖品貨

春菴と稱せしが、明治十一年庵を改めて寺と爲せり。寺實に聖觀音立像一軀あり、作者詳かならざれども其の彫刻の優逸なるを以て鑑査狀を有せり。三年前寺域内の斷崖下に四室よりなる長屋風の簡素なる建築を施し、汎く世に開放して簡易生活と精神修養の希望者に貸與し居れるが、天地幽寂の境とて練心磨魂の士の來り住せるもの違あらずといふ。

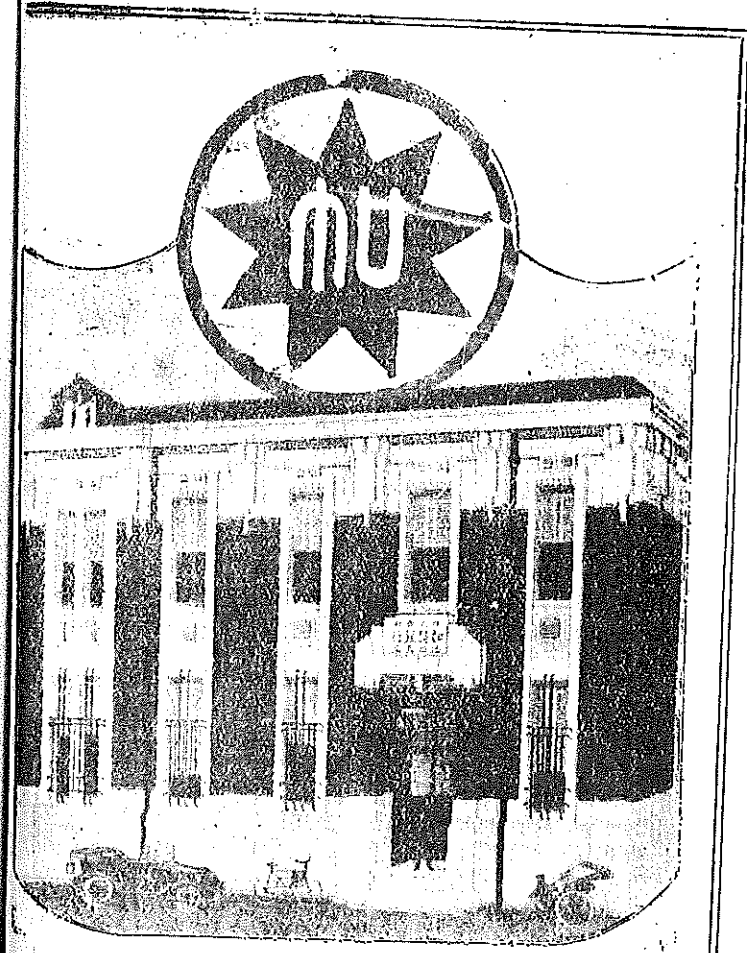


壽命寺

壽命寺 町の西方字西之口町に在り。本尊は阿彌陀佛にして醫王山と號し、淨土宗智恩院に屬し、天平年中僧正行基の創建なり。行基、天平六年の秋此に來りて吳織穴織の社に參籠せし時、神託ありて宣はく、我は漢土より來たりし樂師如來なれども唐船淵に沈みて佛法値遇を待つこと久し、早く探り得て佛場を興すべしと。行基驚き則ち水想觀を修したるに性水湛然として瑠璃の尊像朗かなるを見、其の光を逐ひて遂に唐船淵に至り岸邊に草座して夜もすがら誦禮拜したるに、夜すでに明けなんとするとき忽ち光明燦爛として河水金色を流し巖上に七寸の藥師尊像儼然として座せり。行基則ち僧加梨を以ていだき南都に歸らんとせるに、其の像俄に重くして大磐石の如く動かず、依りて此處に有縁の地たるを知り草庵を結びて之れを安置し神願

寺と號し、更に手づから十二神四天王の像を彫刻し同じく同寺に安置せり。像は今境内の樂師堂に安置せるもの即ち是れにして、吳織穴織二姬奉朝のとき海上の護身佛として携帶せしものならんといふ。偶々天下疫病大に行はれ民死するもの甚だ多かりしかば、時の天皇行基に勅して此の尊像に祈願せしめしに一七日に當りて如來の御頭より光明十方に放ち天下の疫病一時に去りぬ。天皇其の靈驗を叙感ありて諸堂を建立され醫王山壽命寺と改め號し給へりとぞ。中古の寺歴詳かならず、永祿二年に僧運策の再建せしもの現存の堂宇にして、寺域は三百八十餘坪にして甚だ廣からざれども本堂、書院、鐘樓、土藏、藥醫門、其の他佛堂大いに具はれり。寺實は東山院天皇第三皇子公寛法親王筆「醫王山」同「壽命寺」額面各二軸宛、行基作本尊阿彌陀如來座像一軀、作者未詳藥師如來座像一軀、以上は何れも鑑査狀を有し、其の他建武元年楠正成奉納の青、菊水紋章軍旗等の珍品少なからず。

圓光寺 淨土宗鎮西派に屬し總本山智恩院の末寺にして、柳屋町に在り。瑞雲院不斷山と號し數箇寺の末寺を有すると共に中本寺として地方の名利たるを失はず。傳へ云ふ、往昔此處に一草堂あり、稱名念佛の徒踵を接して四時絶ゆる事なきを以て人呼びて不斷堂といひきと。人皇百五代正親町天皇の永祿年間智恩院第二十七世德譽上人、嫡弟祐圓と共に巡錫の途次、堂に宿して暫らく止まり信徒と協りて精舎を建てしもの即ち現存の寺是れなり。されば祐圓を開山とし現住細井憲道師に至りて二十四世を経たり。境域一反九畝七歩にして、境内には本堂、庫



店支田池行銀島加社會式株

町本田池府阪大

資本金壹千五百拾萬圓〔拂込濟〕
 諸積立金參百萬圓〔大正十
 諸預リ金壹億四千五百餘萬圓〕未現在

本店 大阪市西區土佐堀通一丁目

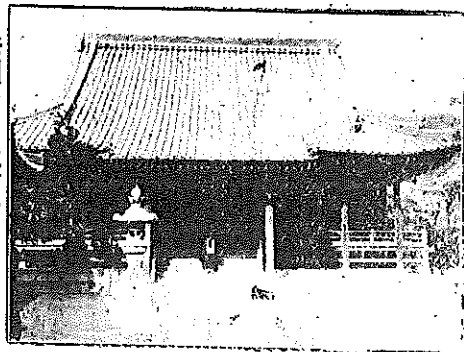
株式會社 加島銀行

池田支店 大阪府池田本町

電話長二八番
 振替大阪四一九八〇番

出張所 大阪府下岡町
 電話壹番

頭取	廣岡惠三
常務取締役	星野行則
常務取締役	吉井仲助
同	加輪上勢七
取締役	祇園清次郎
取締役	大村彦太郎
取締役	江村忠之助
監査役	廣岡久右衛門
監査役	松井萬祿
監査役	星島謹一
監査役	星島謹一
池田支店	青木茂



裡、鐘樓門の外、觀音堂、閻魔堂、愛宕地藏堂等の佛宇あり。寺寶には小野篁作聖觀音立像一軀、勸阿作阿彌陀立像一軀、張思恭筆釋迦三尊繪畫一幅を以て其の最なるものとし共に鑑査狀を有し、其の他、運慶作馬頭觀音座像一軀、惠心作地藏菩薩立像一體、同將軍地藏立像一體、世尊寺行房九條敬家筆和漢朗詠集二卷、道歌筆絹本着色十六羅漢畫像十六幅、探幽齋筆絹本着色維摩畫像一幅、獨湛筆阿彌陀畫像一幅、厭水筆絹本着色阿彌陀佛畫像一幅、土佐光成同光起合筆絹本着色竹鷄之畫一幅、良純法親王筆吉野の歌色紙一葉、後西院天皇女檀宮染筆「不斷山」同「普門殿」扁額各一面宛、花頂宮尊胤親王筆「西光寺」扁額一面九條前關白圓眞筆「王舍城」扁額一面等甚だ少なからず。

法園寺 建石町にあり、淨土宗智恩院の末にて本尊は阿彌陀佛なり。創立の年月詳かなざられども再建せしは天文七年にして、智恩院一代玉蓮社勝譽の檀徒と協力經營せし處なり。寺寶に惠心作聖觀音立像一體及び鳥佛師作本尊阿彌陀佛一體ありて共に鑑査狀を有し、其の他藤原仲先の字本尊と稱する如意輪觀世音座像一體、運慶作韋駄天立像一體、傳教大師作辨才天座像、協侍大黑天毘沙門天立像各一體、絹本着色涅槃像一幅あり。而して去る大正六年十月信州善

光寺より如來の分身を勸請奉安し、池田別院の公稱許容を得て毎年三月六日をとし七草會法要を執行し居れるが、當日は遠近の善男善女參詣して盛賑を呈し居れり。



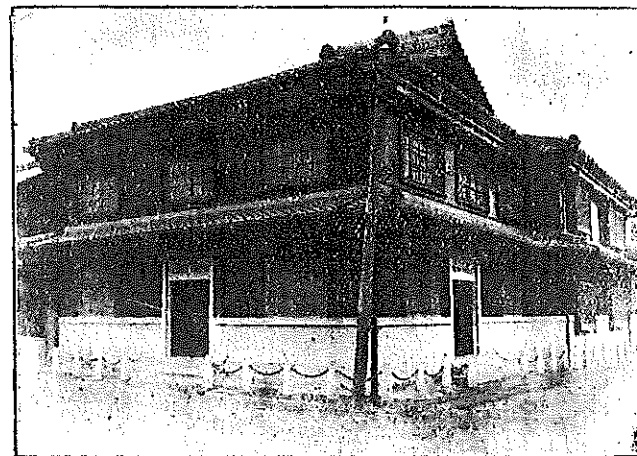
本養寺 寺内町に在り、日蓮宗に属し山を瑞光と號し院を洞妙と呼ぶ。本尊は一塔兩尊、四天日蓮上人なり。應永十六己丑年五月洛陽本圀寺第五祖日傳の嫡弟玉洞院日秀（近衛前關白從一位左大臣道嗣の子）當地に來錫の際、時の道俗貴賤一字を創し之を請ず、時れ當寺草創の濫觴なり。依りて近衛家より天正十年現境内及寺内町の宅地七反歩餘を、又閑院宮八百姫より上田一反歩餘を各靈牌に附して寄進あり、其の他兩家より

金品の寄物尠ならず。元祿四年時の檀頭山川庄右衛門等外一統協力し本堂及び諸堂門改築に着手して同八年落成し、更に明治四十一年より大正二年迄大修繕を施 殆ど舊觀を呈するに至れり。開山より現住日常師に至る迄實に四十代、創立より今日に至れる約五百年を経て逐年信徒の歸依厚し。年中行事としては毎年二月十六日宗祖大聖人降誕會、三月彼岸中結二日法會説教、八月十八日盆會施餓鬼供養會、十一月三日宗祖即會式、法要説教其の他教區布教講演會等を開催し居れり。

明治二十四年創業
西宮銀行

諸預金 貳千四百拾參萬參千七百圓
資本金 壹百萬圓
諸積立金 四拾五萬參千八百圓
株式會社 西宮銀行
頭取 八馬兼助

川邊郡小濱村 寶塚 派出所 電話寶塚一二二番
川邊郡川西市 川西 派出所 電話池田一六九番
豐能郡萱野村 萱野 派出所 電話箕面十番
三島郡豐川村 豐川 派出所
武庫郡甲東村 甲東 派出所
川邊郡長尾村 長尾 派出所 出張所

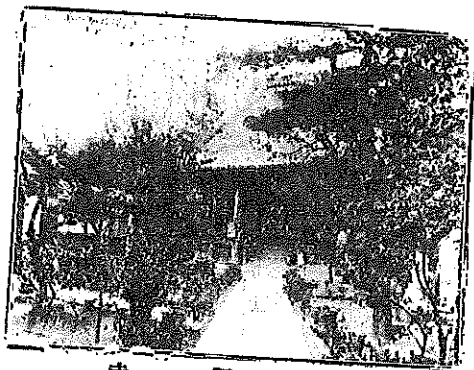


株式會社

西宮銀行池田支店

主 任 駒井 龜治 郎

池田南新町 (池田電話九番)

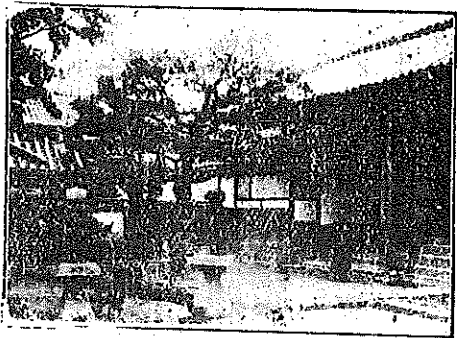


高法寺

米屋町にあり、待兼山と號し、眞言宗高野派末にして三等格院なり。開基は僧正行基なり、本尊は十一面觀世音菩薩にして行基の作なりと傳ふ。當寺は往昔和歌に名高き豊能郡が、其の後兵火に罹り堂宇悉く烏有に歸するや今の地に移して再建せり。現今當寺には高野山

弘誓寺

大西町に在り、眞言宗本願寺派本願寺に所属し、永正六巳年二月二十八日の創立にして元祿三年第七世住職惠空の再建に係り、開基は西道空なり。道空、俗姓城主大西筑後守充政の一族にして、大西準、宜正の長男同源五の正是れなり。永正六年本願寺第九世實如上人の眞弟となり一寺を創立したるものなるが即ち本寺なり、寺域さまで廣からざれども本堂、庫裡、書院、鐘樓、土藏等其の他の佛堂よく具はれり。毎月定例布教としては月の二日午后二時より法話會を開き、又月の第二日曜午前九時よりは佛教大學教授湯次了榮師を講師に聘して原人論の講話あり。更に毎月二十日午后二時、午后七時の兩回大阪駐在布教師加藤玄徹師の講演會二十一日午后二時同七時の兩回婦人會説教を開き地方教化の爲めに盡しつゝあり。



高法寺

大師教會北攝支部を置き部長に岩尾覺尊師を配して鋭意大師信者に鼓吹し居れり。

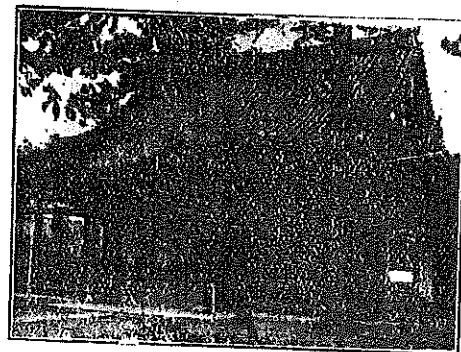
東光院 今を去る一千百九十年の昔人皇第四十五代聖武天皇の天平年中に當り行基菩薩の開基に係る醫王山壽命寺七堂伽藍内の一院として本尊に不動明王を祭りたるが、中古數百年の星霜と共に堂宇損傷し剩へ兵火に罹り荒廢に歸したる爲め本尊は一時民家に安置せられたり。其の後寺跡は存續せられたるも明治維新の際杜撰廢寺となれるを、大僧都了觀深く遺憾とし明治十八年現在の位置即ち西之口町に再建復歸したり



東光院

本尊を不動明王とし其の右側觀喜天左側に神變の兩尊像を安置し、普く地方の祈禱所として信仰薄からず。天喜宗に屬し、現住職は畑了圓師なり。

託明寺 林口町に在り、創建せられたるは元和九年



にして當時正覺寺と號せり源光仲の裔なる葛野兵衛が信州に歸依して初め川邊郡萩野村に住し後轉じて當寺の開基となる、兵衛の法名祐西、元京都府葛野郡の領主たりしを以て葛野を姓とす。正徳、元祿の前後檀徒たる山城屋仁兵衛、菊屋市左衛門等の豪麗家が寺格昇進の儀を本山に申請したれども本山之れを許さず、時に越後國新發田に宗祖の遺跡新江山託明寺と云へる靈場寺あり、荒廢して顧みられざりしを以て之れを當町に移し由緒を正して再度出願す。乃ち許されて寺格を昇進し住職を權律師に補せられ、正徳元年現稱に改む。本尊は日春の作巴、累世十四代を経たり。大正八年宗祖六百五十年遠忌に方り其の紀念として本堂、庫裡を修繕し山門を改築し以て盛大なる宗祖遠忌を修せり。

第二章 名勝舊蹟

五月山 當町の北方に當り屹然高く聳えて老蒼樹鬱天に參し蒼翠の裡堂塔伽藍の彫楹繪楣を洩らさしむるもの之れを五月山とす。今、池田山と稱し高さ二百尺餘周圍一里餘、三島郡より

本郡の北方に連亘せる山脈西に延いて箕面山となり、更に西に蜿蜒し池田川に臨みて此の孤峰をなす。攝津誌は實に佐伯山にして五月山は其の訛轉なりといひ、又攝津名所圖繪は佐伯山は川邊郡猪名寺村にありとの説あれども此所には山あらず、且五月山と稱すること年久しくして古詠多ければ二者は一所二名なるべし。契沖は假名のつとまがへたる也といへりと記せり今思ふに仁徳天皇三十八年紀に猪名縣佐伯献苞直の文見え、猪名には佐伯部の住せしより一説の出でたるものなるけれども固より確證あるにあらず、又名所圖繪の説も更に疑ひなしとするを得ず。然れども佐伯部の如きは諸國に散在したりし事青史には見えなれば、此の地方にも佐伯部の住し隨ひて此の山をも佐伯山と稱せしを、復五月山を索強するに至りしものならんか。現に名所歌集の如きも五月山を一説佐伯山として攝津國の部に擧げ居れり。今古歌の二三を左に録すべし。

古 今。さつき山木すゑを高め時鳥、なく音そらなる戀もするかな。
拾遺。五月山木の下間に燈す灯は、鹿の立ちごのしるべなりけり。
新古今。五月山卯の花月夜ほととぎす、きけどもあかず又啼んかも。
新千載。照射する五月の山の青つとら、くるゝ夜毎に鹿やなくらん。
新拾遺。五月山弓杖振立て燈す火に、鹿やはかなく目をあはすらん。
堀川百首。五月山みね立つ鹿も心せよ、ともしの女なも亂れ入るなり。
同。雲間なき五月の山の木の下は、照射するにぞ雲も見えける。

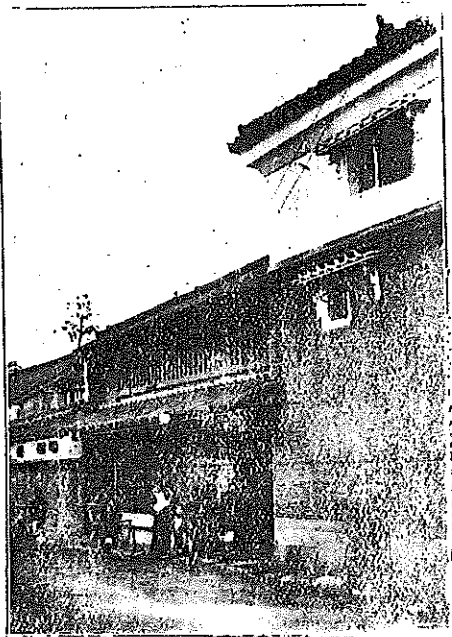
紀貫之
同 讀人知らず
津守 國助
崇徳 院
藤原 公實
關 信

月 清。五月山さもしに洩れしさを鹿の、秋は思に身をしはるらん。
夫 木。さつき山あめに雨そふ夕かせに、雲より下を過ぐるしら雲。
同 杜鵑たづねに行かんさ月山、卯の花陰に鳴かずしもあらじ。
新 六。五月山雲ははねねどほとぎす、卯花月にさやかにぞ鳴く。
藤原 良經
同 雅 重
藤原 知家

山に登路五條あり、共に數丁にして字平井及び大廣寺後よりするものを最捷路とす。頂には松樹疎々として盤舞し、聘望一番すれば近く川邊、豊能の里落より浪華、尼ヶ崎の萬戸は呼應の裡にあり、遙かに南紀、淡洲の翠色悉く双眸に入る。山また一祠あり、里俗之れを愛宕と稱し佐伯部の祖神を祭り年の七月二十四日を以て法會を營み、祠畔に數百の燈火を點じ更に「大」と「二」を形作れる焼焚をなし遠く之れを望めば中天更に幾多の巨星を羅せしに似、奇觀を極め人呼びて池田の愛宕火と云へり。

有田城趾 又一に池田の古城趾と稱し、町の北方五月山の南麓に纔に一堆の地を餘して趾を存せり。俗にまた城山と呼び東西百五十間、南北百六十間餘、周圍十餘町ありて回字形を爲し西南低き處宇して堀と云ふ。蓋し濠趾ならん穿鑿して屢々武器の斷片を得たりと云ふ。天文の初め細川晴元此に據り家臣三好長慶の攻むる處となり城を捨て、奔り、永祿年中池田光政入りて居城と爲し家門隆盛を極めきと。

牡丹花宵柏遺趾 大慶寺内の泉福院（明治八年十一月浪華に移轉せり）の後園は其の趾なり



社 本 報 日 陽 太

太陽日報社

創立大正三年一月十九日
月十五回隔日發行

電話池田二二二二番
振替大阪二五五四〇番

發行所 大阪府下池田町

支 局
大阪、神戸、尼崎、伊丹、
寶塚、西宮、三田、篠山、
柏原、福知山、茨木